

ディアコミット®を服用されている 患者さんのご家族へ

監修 岡山大学名誉教授 大塚 頌子 先生



医療機関名

Meiji Seika ファルマ株式会社

DC001603®
(AI)
改訂:2020.4
04M-21Y



ドラベ症候群の治療	3
ディアコミット®について	4
ディアコミット®の服用方法	5
服用上の注意	7
起こりやすい副作用	9
副作用が疑われる症状	10
日常生活上の注意点	16
発作への対応	17
救急車を呼ぶタイミング	18

お薬による治療



てんかん発作の治療の中心は**抗てんかん薬**と呼ばれるお薬による治療です。

てんかん発作が長く続いたり、発作の回数が多い状態が続くと、からだや脳の機能に悪い影響を及ぼし、知能や運動機能の発達の障害を引き起こします。したがって、できるだけ**早期から発作を抑える治療を開始し、継続することが大切**です。

ディアコミット[®]によるドラベ症候群の併用療法

発作治療の基本となるお薬

バルプロ酸ナトリウム

+

クロバザム

上記のお薬で十分な効果が得られない場合に併用するお薬

ディアコミット[®]

ディアコミット[®]とは



ディアコミット[®]は新しい抗てんかん薬で、ドラベ症候群のてんかん発作の中でも、間代発作、強直間代発作等の**けいれん発作に対し有効**なお薬です。ディアコミット[®]は、**クロバザムやバルプロ酸ナトリウムで十分な効果が得られなかったドラベ症候群**に対し、これらに**併用**して使われます。

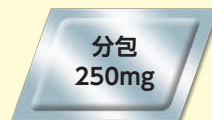
ディアコミット[®]の剤形



ディアコミット[®]には、水に溶かして飲む**ドライシロップ分包250mg・500mg**と、水とともに飲む**カプセル250mg**があります。担当医師の指示にしたがって、決められた剤形の製剤を服用します。

また、服用している剤形を変更した場合には、お薬の血中濃度が変わるおそれがあるため、これまでと効果や副作用に変化がないか、注意深く観察してください。変化がみられた場合など、必要に応じて血中濃度を測定することがあります。

ディアコミット[®]の剤形



ドライシロップ分包
250mg・500mg

カプセル
250mg

ディアコミット®の服用方法

ディアコミット®の服用方法



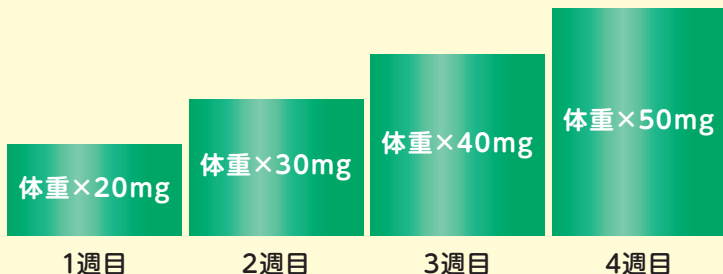
食事中あるいは食直後に服用するお薬です

ディアコミット®は、1日2~3回に分けて食事中あるいは食直後に服用します。空腹の状態では服用すると、十分なお薬の効果が得られないおそれがあるため、少しでもいいので何か食べてから服用してください。

少ない量から徐々に服用量を増やします

少ない量から飲み始め、担当医師の指示にしたがって、十分な量まで少しずつ増量していきます。

ディアコミット®の増量方法(例)



体重の増減に合わせてお薬の量を変更します

ディアコミット®は、体重にあわせて服用する量が決められています。

受診のたびに体重を測定し、増減した場合には担当医師と相談のうえ、お薬の量や必要に応じて剤形を変更します。



ディアコミット®の服用方法

ドライシロップの飲ませ方



ドライシロップは、プラスチック容器などを用いて1包(250mg)を水約10mLによく混ぜます(1包500mgの場合は水約20mL)。服用毎に1回分ずつ水によく混ぜて、残ったお薬は、必ず廃棄してください。

昼の服薬を家以外で行う場合でも、その都度調製するようにしてください。学校などでは先生に相談しておくといでしょう。

溶かし方

<125mgの場合>

→1包(250mg)を水10mLによく混ぜて、1/2量(5mL)を服用

<50mgの場合>

→1包(250mg)を水10mLによく混ぜて、1/5量(2mL)を服用

※125mg または50mgの場合でも、必ず1包(250mg)全量を水10mLによく混ぜて、必要量を服用させてください。残ったお薬は、必ず廃棄してください。



プラスチック容器などでドライシロップ(250mg)に対し、水10mLを入れ、よく振り混ぜてから、必要な量を飲ませてください。

服用上の注意

飲み合わせの注意



ディアコミット®は、**緑茶や紅茶、コーヒー、コーラ、チョコレート(ココア)などカフェイン**を含む食品と一緒に摂ると、カフェインの作用が強くなり、眠れなくなったりするおそれがあるため、ドライシロップをこれらに混ぜて飲ませたり、カプセルと一緒に飲ませたりしないでください。牛乳やフルーツジュースなどには混ぜて飲んでも構いません。



飲み忘れた場合



飲み忘れた場合は、**気がついた時点で飲み忘れた時の1回分のお薬**を飲んでください。その場合も、空腹時は避け、少しでもいいので**何か食べてから服用してください**。ただし、その際もチョコレートなどカフェインを含む食品と一緒に食べさせないでください。また、次の服用までは**4時間以上の間隔**をあけてください。

外出する際に使うバッグなどに、あらかじめ予備のお薬とあわせて軽食を入れておくとよいでしょう。



カプセル剤の保存方法



- カプセル剤は2週間以上経過すると吸湿することがあります。湿気を避け、しっかりふたのできるボトルで保存してください。
- 家の外(学校、旅行先など)で服用するために別の容器に入れて持ち運ぶ場合には、しっかりと封のできる容器に入れて保存してください。

*カプセル剤の服用に関しましては、担当医師・薬剤師の指導のもと服用してください。なお、小分けボトルを処方された場合には、必ず、小分けボトルから服用してください。

服用上の注意

他のお薬を使用するとき、他の病気にかかったとき



ディアコミット®と同時に服用することで、作用が強まったり、弱まったりするお薬があります。市販のお薬も含め、**他のお薬を使用される場合は**、担当医師にご相談ください。

また、**現在服用しているお薬をやめる場合も**、担当医師にご相談ください。てんかん以外の病気で医療機関を受診される場合は、**てんかんであること、現在服用されているお薬を正しく伝えてください**。

ご自身の判断でお薬の量を変更しないでください



体調がよくなったと感じたり、あるいは副作用の症状が重い場合でも、ご自身の判断で、**お薬の服用をやめたり、お薬の量を減らさない**でください。お薬の服用をやめると、発作の症状が悪化したり、てんかん重積状態となる可能性があります。



その他の注意点



- 定期的にお薬の血中濃度測定、血液検査や心電図検査などを行います。
- 妊娠中または妊娠の可能性のある場合は、担当医師にご相談ください。
- 授乳中については担当医師とよくご相談ください。

お薬を服用していて、何かお気づきの点がありましたら、担当医師・薬剤師に相談してください。

起こりやすい副作用

副作用



ディアコミット®を服用した場合、以下の副作用が起きることがあるため、普段と変わったことはないか、気をつけてください。

<重大な副作用>

重篤な食欲の低下、好中球減少症

<主な副作用>

食欲減退、眠気、不眠、ふらつき、肝機能障害、白血球減少、ふるえ、体重減少、皮膚乾燥など

上記の副作用は、すべてを記載したものではありません。上記、またはこれ以外で気になる症状、体調の変化が見られた場合は、担当医師・薬剤師にご相談ください。

副作用が起こったときには



重篤な食欲の低下

食欲が低下したり、食事が摂れない状況が続く場合は、担当医師・薬剤師にご相談ください。

眠気やふらつき

眠気やふらつきにより転倒するおそれがあります。転倒により大きなケガにつながることもあるので、家の中など周囲の環境に留意してください。

日常生活に支障がある場合は、担当医師・薬剤師にご相談ください。

また、自動車の運転など、危険を伴う機械の操作は避けるよう注意してください。

副作用が疑われる症状

眠気



疑われる副作用 傾眠(眠気)

この薬は脳の神経の過剰な働きを抑えて、てんかん発作を抑えるため、服用中は日中でも眠くなることがあります。起こしてもなかなか起きない、日中も眠そうにしている、気がついたら眠っていた、などの症状がみられたら、副作用かもしれません。



どうしたらいい？

日常生活に支障をきたす場合には、速やかに担当医師にご相談ください。

転倒しやすい



疑われる副作用 傾眠(眠気)、ふらつき

ディアコミット®服用中には、眠気やふらつきがみられることがしばしばあります。てんかん発作ではないのに、普段よりも転びやすいたら、眠気やふらつきの副作用のせいかもしれません。



どうしたらいい？

転倒によるけがをできるだけ防ぐようにしましょう。外出する際は保護帽をかぶるなど注意してください。日常生活に支障をきたす場合には、速やかに担当医師にご相談ください。

副作用が疑われる症状

食事を食べない、元気がない、からだがだるい

疑われる副作用 食欲の低下、肝機能障害、傾眠(眠気)

発作はひどくないのに、食事を食べなかったり、活発に動かないなど、普段より元気がないということはありませんか。副作用として、食欲の低下がみられます。また、肝臓の機能が低下していると、元気が出なかったり、体がだるくなることがあります。ディアコミット®服用中、ときに肝機能障害の目安となるAST (GOT)やγ-GTPが上昇することがあります。

どうしたらいい?

食事が摂れない状態が続く場合には、長引く前に受診してください。また、血液検査をすれば、肝機能が低下しているかどうかすぐにわかります。



副作用が疑われる症状

かぜをひきやすい、かぜが治りにくい

疑われる副作用 好中球減少、白血球減少

好中球や白血球は、体の中へ細菌やウイルスなどが侵入するのを防ぎ、感染を防ぐ働きをしています。好中球や白血球が減少すると、抵抗力が低下して感染症にかかりやすくなり、微熱が続いたり、かぜ症状がなかなか治らなかつたりします。

ディアコミット®服用中には、ときに好中球や白血球が減少することがあります。



どうしたらいい?

細菌やウイルスの感染を避けるために、できるだけ清潔を保つようにしましょう。かぜをひくと、発作の悪化にもつながるおそれがあります。かぜ症状がみられたら、早めに受診しましょう。



副作用が疑われる症状

出血が止まりにくい、アザができやすい

疑われる副作用 血小板減少

歯ぐき、鼻などから出血したり、出血するとなかなか止まらないとしたら、血小板減少かもしれません。血小板には血液を固らせる働きがあるため、減少すると出血した時に血が止まりにくくなります。ディアコミット®服用中には、ときに血小板の減少がみられることがあります。



どうしたらいい？

けがをしないように気をつけましょう。好中球減少や白血球減少と同じように、血液検査で判明しますので、早めに受診しましょう。



副作用が疑われる症状

手足やからだのふるえ

疑われる副作用 振戦(ふるえ)

普段のてんかん発作とは異なり、手足やからだ全体のふるえがみられたら、副作用の可能性あります。ディアコミット®服用中には、しばしば振戦とよばれる、ふるえがみられることがあります。



どうしたらいい？

日常生活に支障をきたす場合には、速やかに担当医師にご相談ください。

かゆみ

疑われる副作用 皮膚の乾燥

頻度は少ないですが、ときに皮膚が乾燥し、かゆみを生じることがあります。

どうしたらいい？

冬期など空気が乾燥する時には保湿をこころがけてください。かゆみが続く場合には、悪化する前に担当医師にご相談ください。



皮膚や目の色が黄ばんでいる、尿の色が違う

疑われる副作用 **肝機能障害**

肝臓の働きが弱まると、皮膚や白目が黄色くなる、尿が黄色い、からだがだるい、かゆみなどの症状があらわれることがあります。この薬では、肝機能障害の目安となるAST (GOT) やγ-GTP上昇という検査値の異常がときにみられることがあります。



どうしたらいい？

すぐに担当医師を受診してください。血液検査をすれば、肝機能が低下しているかどうかすぐにわかります。

ケガや事故の予防

お薬の副作用によるめまいやふらつきなどが原因で転倒することがあり、ケガや事故に繋がることもあります。また、てんかん発作の時に転倒することや意識が低下した状態で動き回るタイプの発作もあります。このような発作では、ケガや事故にあうおそれがあるため、**危険な物を片付けたり、危険な物のそばに寄らないように注意しながら意識が回復するまで見守ってください。**

家の中には危険な物はできるだけ置かないようにしましょう。



外出する際には

万が一の転倒に備え、**保護帽**をかぶっておくと頭を守ることに繋がります。外出中は患者さんから**目を離さない**ようにしましょう。

また、外出する際には、**連絡先カード**を携帯することを忘れないようにしましょう。



発作が起こったときの対応



発作が起こった場合は、まず**落ち着いて、ケガをしないように**注意し、発作が治まるまでの一部始終を観察してください。

- けいれん発作が起こった場合、きつい衣服は緩め、横にさせてください。
- 周囲に危険な物があれば、遠ざけるようにしましょう。
- 口の中に、箸やタオルなどを入れると、窒息に繋がる危険があるので、入れないでください。
- 食事中に起こった場合は、無理に口の中のものを取り除こうとせず、頭を横に向けましょう。

発作を観察するときのポイント



「いつ」、「どこで」、「何をしていたとき」、「どのような発作が」、「どのくらいの時間」起こったのかについて、できるだけ詳しく記録しましょう。

- いつ起こったか：寝ているとき、起きているとき
- どのような状況で起こったか：発熱、寝不足、入浴など
- どのような症状だったか：意識の状態、眼球や手足の状態
- どのくらい続いたか：発作は何分くらい続いたか、どのくらいで意識が回復したか
- どのくらいの頻度で起こったか

言葉で説明することが難しい場合は、**携帯電話、スマートフォン、デジタルカメラ**などを使って、**動画による記録**を残しておく、後で担当医師に報告するときに役立つことがあります。

救急車を呼ぶ必要のある場合



- いつもと異なる発作が起こった場合
(例)
いつもは意識を失わなかったが、意識を失う発作になった意識が低下するだけの発作が、けいれん発作に変わった
- 同じ発作が意識を回復せず反復する(てんかん重積状態)
- 目安として5分以上発作が続く

どのような発作が現れたか、医師に報告してください。発作の始まりからの様子を詳しく伝えることが大切です。

